

第4章

父親のかかわり、 母親の周囲とのかかわり

第1節 * 父親の子どもとのかかわり

高岡純子

正社員の母親の夫は、専業主婦の夫よりも子どもへのかかわりが多い。帰宅時間が21時台以降の父親は、子どもへのかかわりが少ない。

1. 学年があがるとともに父親のかかわりが 増加するのは「子どもと遊ぶ」のみ

はじめに、子どもとのかかわりやしつけに母親と父親がどの程度かかわっているかを学年別にみてみよう(図4-1-1)。4つの選択肢(「主に私(母親)」「私と配偶者(父親)と同じくらいの割合」「主に配偶者(父親)」「配偶者と一緒に」)からひとつを選択してもらった。

子どもの学年別では、母親と父親の分担の割合に変化がみられない項目が多い。「主に私(母親)」が行うと回答した割合をみると、「習い事を選ぶ」約5割、「子どものしつけにかかわる」約4割、「子ども用の絵本や本を選ぶ」約7割、「子どもに絵本や本の読み聞かせをする」約7割である。この4項目では、「主に配偶者(父親)」の割合は一貫して1割以下である。年少児から小1生にかけて「主に私(母親)」の割合が増加していくのは「子どもに文字や数を教える」(年少児54.6%→小1生60.5%)、「子どもと一緒に地域の活動に参加する」(年少児46.4%→小1生55.1%)である。どちらも「主に配偶者(父親)」の割合は1割以下である。

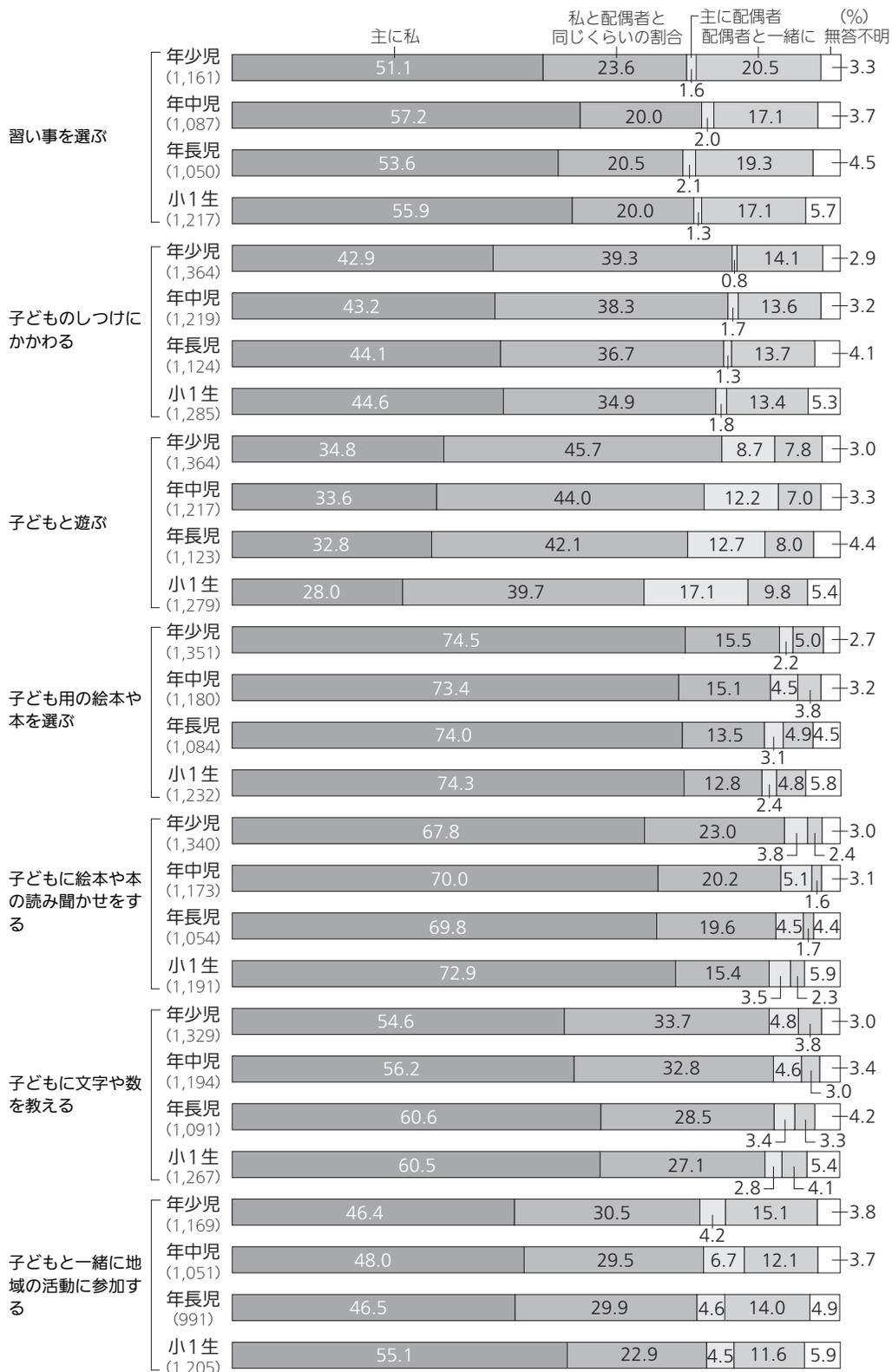
年少児から小1生にかけて「主に配偶者(父親)」が増えるのは「子どもと遊ぶ」のみで

ある(年少児8.7%→小1生17.1%)。「私(母親)と配偶者(父親)と同じくらいの割合」が多いのは、「子どものしつけにかかわる」、「子どもと遊ぶ」、「子どもに文字や数を教える」といった項目で、3割から4割を占めている。「子どもと遊ぶ」では、すべての学年でもっとも高い割合を示している。

2. 専業主婦の母親は正社員やパート・アルバイトの母親よりも主に子どもにかかわる割合が高い

年少児～年長児の母親と父親の家事・育児の分担について、母親の就業状況別にみると(表4-1-1)、専業主婦の母親は、正社員やパート・アルバイトの母親に比べて「主に私(母親)」の割合が総じて高かった。専業主婦と正社員で10ポイント以上の差がみられたのは、「子どものしつけにかかわる」(正社員35.3%<パート・アルバイト40.8%<専業主婦47.0%)、「子どもに文字や数を教える」(正社員45.0%<パート・アルバイト53.3%<専業主婦60.5%)、「子どもと一緒に地域の活動に参加する」(正社員31.1%<パート・アルバイト41.8%<専業主婦43.4%)だった。一方、「私と配偶者(父親)と同じ

図4-1-1 配偶者との家事・育児分担（学年別）



注1) 「該当しない」と回答した人は除く。

注2) () 内はサンプル数。

くらの割合」は、どの項目でも正社員がもっとも高かった。働いている母親は、父親と分担して子育てをする傾向がうかがえる。図表は割愛するが、出生順位別にみると、第1子と第2子以降で傾向が異なるものがある。「習い事を選ぶ」、「子ども用の絵本や本を選ぶ」、「子どもに文字や数を教える」、「子どもと一緒に地域の活動に参加する」では、第1子よりも第2子以降のほうが主に母親がかかわる割合がとくに高くなっていた。

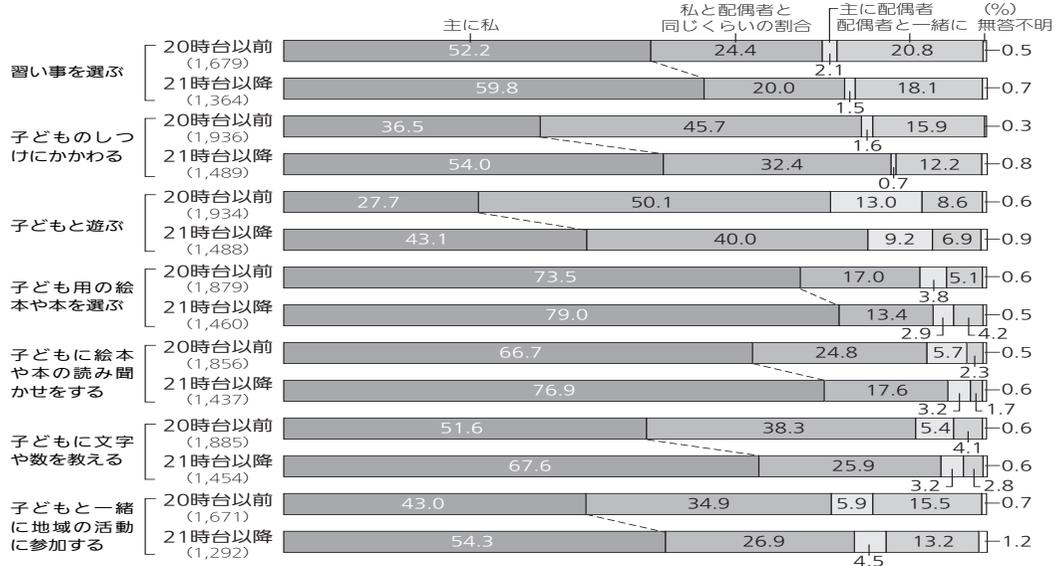
3. 帰宅時間が21時台以降の父親は、子どもへのかかわりが少ない

次に父親の帰宅時間と子育てへのかかわりについてみよう。表4-1-2は、年少児から年長児の父親の帰宅時間を母親の就業状況別に示したものである。全体では、19時台から21時台の帰宅が多く、全体の約半数を占めた。母親の就業状況別にみると、妻が正社員である場合は18時台から20時台の帰宅が多く、約半数を占めた。妻が専業主婦の場合は19時台から21時台の帰宅が多く、約半数を占めた。このことから、専業主婦の家庭のほうが父親の帰宅時間がやや遅い傾向

がうかがえる。

年少児から年長児の時期において、20時台以前に帰宅する父親と21時台以降に帰宅する父親に分けて、子育ての分担をみたものが図4-1-2である。「主に私(母親)」で、10ポイント以上の差がみられたのは「子どものしつけにかかわる」(20時台以前36.5% < 21時台以降54.0%、17.5ポイントの差)、「子どもと遊ぶ」(20時台以前27.7% < 21時台以降43.1%、15.4ポイントの差)、「子どもに絵本や本の読み聞かせをする」(20時台以前66.7% < 21時台以降76.9%、10.2ポイントの差)、「子どもに文字や数を教える」(20時台以前51.6% < 21時台以降67.6%、16.0ポイントの差)、「子どもと一緒に地域の活動に参加する」(20時台以前43.0% < 21時台以降54.3%、11.3ポイントの差)だった。いずれも父親が20時台以前の帰宅の場合は21時台以降の帰宅の場合よりも「主に私(母親)」が子育てにかかわる割合が低く、「私(母親)」と配偶者(父親)と同じくらいの割合が高かった。「主に配偶者(父親)」の割合は、20時台以前と21時台以降にかかわらず1割以下であった(「子どもと遊ぶ」を除く)。

図4-1-2 家事・育児の分担(年少児～年長児・父親の帰宅時間別)



注1) 「該当しない」と回答した人は除く。父親が仕事をしている人のみ分析。

注2) 父親帰宅時間「20時台以前」は「6～10時台」～「20時台」、「21時台以降」は「21時台」～「2～5時台」とした。

注3) ()内はサンプル数。

表4-1-1 配偶者との家事・育児の分担（年少児～年長児・母親の就業状況別） (%)

		正社員 (498)	パート・ アルバイト (906)	専業主婦 (1,826)
習い事を選ぶ	主に私	44.8	48.0	49.3
	私と配偶者と同じくらいの割合	★ 19.9	18.8	18.9
	主に配偶者	2.2	2.3	1.3
	配偶者と一緒に	14.3	15.0	18.3
	該当しない	14.5	9.7	10.7
	無答不明	4.4	6.2	1.5
子どものしつけにかかわる	主に私	35.3	40.8	47.0
	私と配偶者と同じくらいの割合	★ 44.8	38.1	37.1
	主に配偶者	2.2	1.2	0.8
	配偶者と一緒に	12.2	13.7	13.6
	該当しない	0.6	0.2	0.1
	無答不明	4.8	6.0	1.4
子どもと遊ぶ	主に私	28.1	33.7	36.6
	私と配偶者と同じくらいの割合	★ 46.2	41.1	43.9
	主に配偶者	13.9	11.1	10.1
	配偶者と一緒に	6.6	7.9	7.4
	該当しない	0.6	0.1	0.2
	無答不明	4.6	6.1	1.7
子ども用の絵本や本を選ぶ	主に私	65.7	71.7	74.3
	私と配偶者と同じくらいの割合	★ 18.3	12.0	14.5
	主に配偶者	3.6	3.1	3.0
	配偶者と一緒に	4.2	4.5	4.4
	該当しない	4.0	2.6	2.3
	無答不明	4.2	6.0	1.5
子どもに絵本や本の読み聞かせをする	主に私	61.8	64.9	69.6
	私と配偶者と同じくらいの割合	★ 23.5	18.2	19.7
	主に配偶者	4.2	4.4	3.7
	配偶者と一緒に	2.0	1.9	1.8
	該当しない	3.8	4.6	3.9
	無答不明	4.6	6.0	1.3
子どもに文字や数を教える	主に私	45.0	53.3	60.5
	私と配偶者と同じくらいの割合	★ 37.6	30.1	29.0
	主に配偶者	5.0	4.0	3.8
	配偶者と一緒に	3.6	3.3	3.2
	該当しない	4.2	3.2	1.9
	無答不明	4.6	6.1	1.5
子どもと一緒に地域の活動に参加する	主に私	31.1	41.8	43.4
	私と配偶者と同じくらいの割合	★ 31.5	27.7	23.9
	主に配偶者	5.4	3.6	4.0
	配偶者と一緒に	11.4	11.0	12.5
	該当しない	16.1	9.8	14.3
	無答不明	4.4	6.0	2.0
子どもを博物館などに連れていく	私	8.0	8.3	5.8
	配偶者	3.0	2.3	2.8
	配偶者と一緒に	58.8	60.5	65.6
	該当しない	25.3	22.3	24.2
	無答不明	4.8	6.6	1.6

注1) 網かけは正社員と専業主婦で10ポイント以上の差のもの。★は「私と配偶者が同じくらいの割合」でもっとも高いもの。

注2) () 内はサンプル数。

表4-1-2 父親の帰宅時間（年少児～年長児・母親の就業状況別）

	全体 (3,731)	正社員 (498)	パート・アルバイト (906)	専業主婦 (1,826) (%)
6～10時台	0.6	0.4	0.9	0.7
11～15時台	0.8	0.8	0.7	0.8
16時台	0.6	0.6	0.7	0.4
17時台	3.8	5.4	4.7	2.4
18時台	11.8	16.5	12.6	10.4
19時台	18.0	17.9	19.3	16.6
20時台	16.3	19.3	15.9	15.8
21時台	16.1	13.1	12.8	18.8
22時台	12.2	7.0	11.9	14.5
23時台	6.7	5.2	5.0	7.9
0時台	3.2	1.6	3.0	3.9
1時台	1.0	0.6	0.7	1.4
2～5時台	0.9	0.6	0.6	0.9
無答不明	8.1	11.0	11.4	5.5

注1) 父親が仕事をしている人のみ分析。

注2) 網かけは、%が多い順に3つまでのもの。

注3) () 内はサンプル数。

第2節 ＊ 母親の周囲とのかかわり

高岡純子



母親の地域の行事へのかかわりは、幼稚園・保育園のときよりも、小1生のほうが増加する。ママ（パパ）友とのつきあいの割合でも同様の傾向がみられた。

幼児期から小学校入学期の子どもをもつ母親の周囲とのかかわりは、どのようになっているだろうか。

就園や就学は、親子の生活にとって大きな変化の時期であると考えられるため、本節では、年少児から小1生の各学年の違いに注目しながら、母親の周囲とのかかわりの変化についてみていきたい。

1. 小1生になると、地域でのかかわりが増える傾向

はじめに、子どもの学年別に、母親の周囲とのかかわりをみてみよう（図4-2-1）。「地域の行事に参加している」割合は、幼児期は学年があがるにつれて微増し、小学校入学を機に大きく増加する傾向がみられた（「よくある」年少児23.9%、年中児26.2%、年長児26.8%、小1生36.3%）。「地域の行事を手伝っている」でも割合は低いが、同様の傾向を示している。背景として考えられることは、小学校に入学すると、学校から地域の行事の案内が配布されたり、学童保育活動の一環として地域行事への参加や学校の施設を利用した活動（野球やサッカーなど）、各地区における子ども会活動といった子育てを通してさまざまな形で地域とかかわる機会が増えることがあげられるだろう。

ママ（パパ）友とのつきあいについては、「ママ（パパ）友と一緒に子連れで出かけたりしている」では、「よくある」が年少児26.4%、

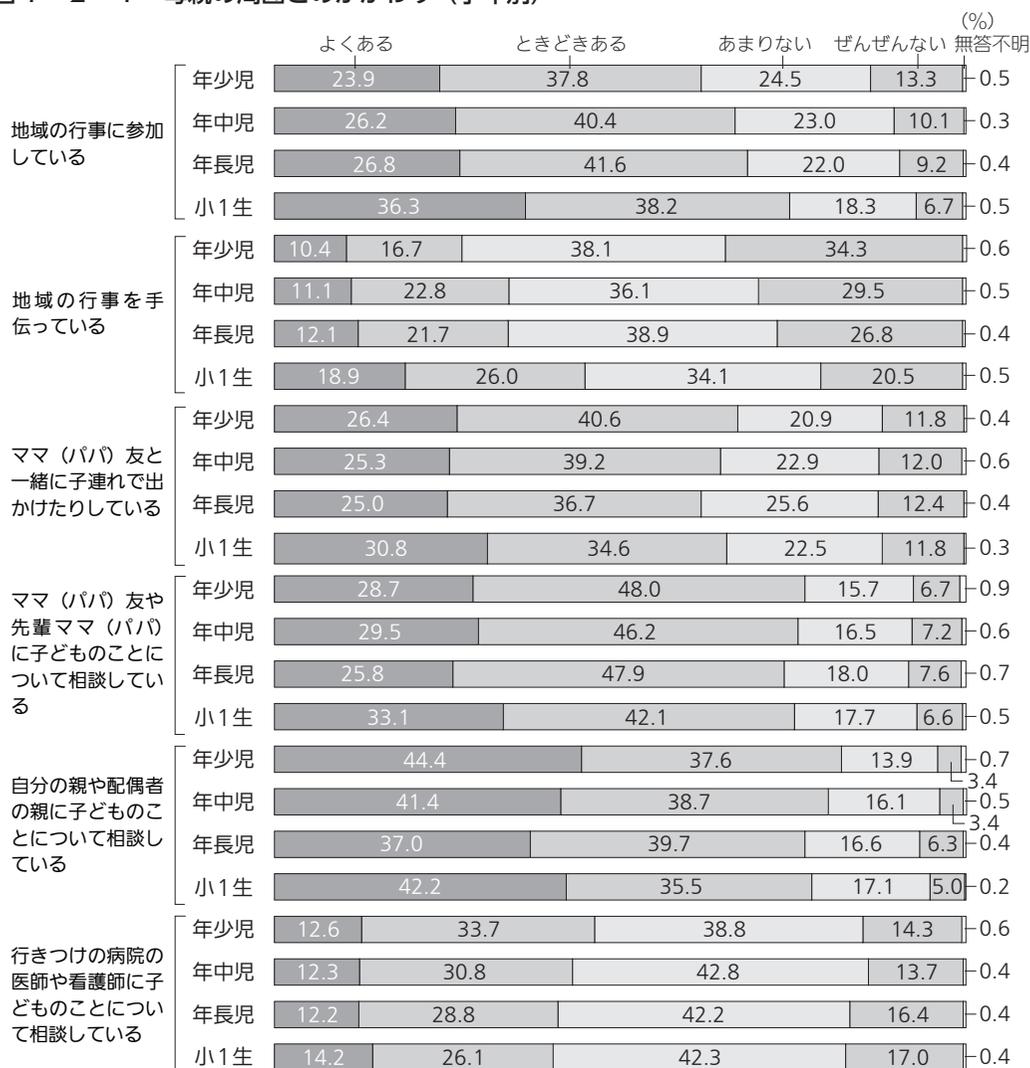
年中児25.3%、年長児25.0%、小1生30.8%、「ママ（パパ）友や先輩ママ（パパ）に子どものことについて相談している」では、年少児28.7%、年中児29.5%、年長児25.8%、小1生33.1%であり、幼児期は学年ごとの大きな変化はなく、小1生でやや増加する傾向がみられた。小学校入学を機にママ（パパ）友とのつきあいも増えることがわかる。ママ（パパ）友と一緒に出かけたり、子どものことを相談する割合は、幼児期から小1生にかけて「よくある」「ときどきある」を合わせて6～7割を占めるが、一方で「ぜんぜんない」と回答している母親がどの学年でも1割前後いることも明記しておきたい。

親や専門家（医師・看護師）への子育ての相談については、年少児から小1生にかけてほぼ変化はみられず、「自分の親や配偶者の親に子どものことについて相談している」は4割前後、「行きつけの病院の医師や看護師に子どものことについて相談している」は1割強が「よくある」と回答していた。

2. 専業主婦のほうが正社員の母親よりも周囲とかかわる頻度が高い

幼児期の母親の周囲の人とのかかわりを母親の就業状況別にみたものが表4-2-1である。全9項目のうち6項目で、専業主婦がもっとも数値が高くなっていた（「よくある」「ときどきある」の合計）。「幼稚園や保育園の保護者会に参加している」（正社

図4-2-1 母親の周囲とのかかわり（学年別）



注) サンプル数は年少児 1,366 人、年中児 1,223 人、年長児 1,125 人、小1生 1,285 人。

表4-2-1 母親の周囲とのかかわり（年少児～年長児・母親の就業状況別）

活動の種類	割合 (%)		
	正社員 (498)	パート・ アルバイト (906)	専業主婦 (1,826)
自分の親や配偶者の親に子どものことについて相談している	78.2	79.8	80.3
幼稚園や保育園の保護者会に参加している	74.6	77.1	83.0
幼稚園や保育園の保育者と子どものことについて話したり相談したりしている	73.4	78.9	81.5
ママ（パパ）友や先輩ママ（パパ）に子どものことについて相談している	62.5	73.5	81.5
地域の行事に参加している	63.5	69.2	63.7
ママ（パパ）友と一緒に子連れで出かけたりしている	50.6	65.1	68.7
幼稚園や保育園の行事を手伝っている	50.1	60.7	62.4
行きつけの病院の医師や看護師に子どものことについて相談している	43.2	44.0	41.8
地域の行事を手伝っている	34.6	38.9	26.2

注1) 「よく+ときどきある」の%。

注2) 幼稚園や保育園に関する3項目に関しては、園に通っていない人は除く。

注3) () 内はサンプル数。

員 74.6% <パート・アルバイト 77.1% <専業主婦 83.0%）、「幼稚園や保育園の保育者と子どものことについて話したり相談したりしている」（正社員 73.4% <パート・アルバイト 78.9% <専業主婦 81.5%）、「ママ（パパ）友や先輩ママ（パパ）に子どものことについて相談している」（正社員 62.5% <パート・アルバイト 73.5% <専業主婦 81.5%）、「ママ（パパ）友と一緒に子連れで出かけたりしている」（正社員 50.6% <パート・アルバイト 65.1% <専業主婦 68.7%）、「幼稚園や保育園の行事を手伝っている」（正社員 50.1% <パート・アルバイト 60.7% <専業主婦 62.4%）と、専業主婦の数値が高い傾向にあることがわかる。正社員の母親は、周囲の人に相談したり、ママ（パパ）友と一緒に出かける時間をとることが難しいと思われる。

3. 小学校とかかわる頻度は、幼稚園・保育園よりも多い

母親が子どもの通う幼稚園・保育園や小学校と、どのようなかかわりを持ち、保育士・幼稚園教諭や小学校の先生とどの程度接しているかを知ることは、子どもの生活環境をとらえるうえで重要であると思われる。

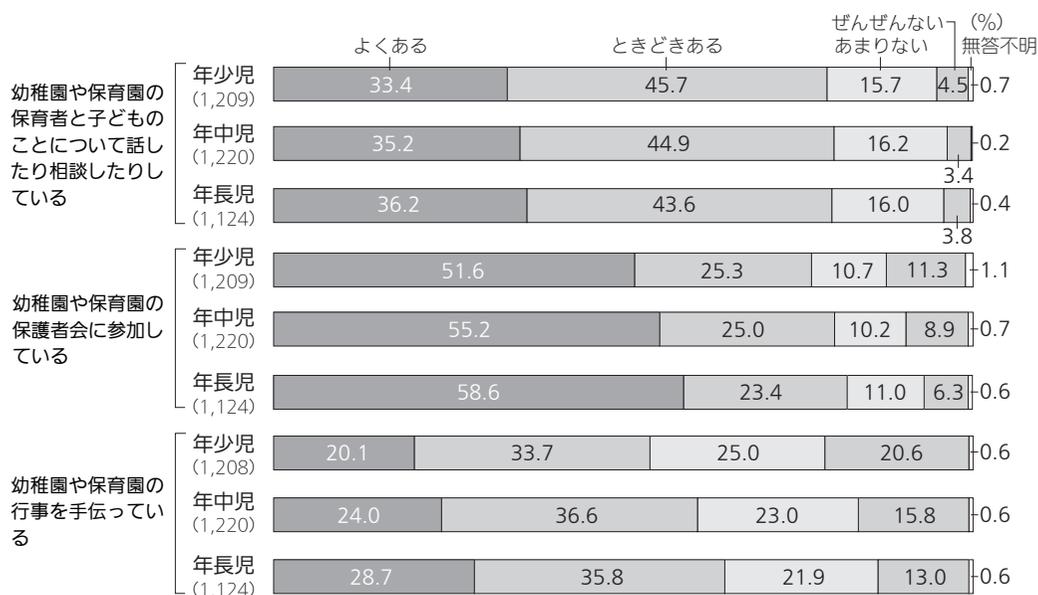
幼稚園・保育園とのかかわりを学年別にみたものが図4-2-2である。「幼稚園や保育園の保護者会に参加している」（「よくある」）の割合は、年少児 51.6%、年中児 55.2%、年長児 58.6%と学年があがるにつれて緩やかに増加した。「幼稚園や保育園の保育者と子どものことについて話したり相談したりしている」年少児 33.4%、年中児 35.2%、年長児 36.2%、「幼稚園や保育園の

行事を手伝っている」年少児 20.1%、年中児 24.0%、年長児 28.7%で、いずれも学年があがるにつれて微増した。

次に小学校とのかかわりの様子を見てみよう（図4-2-3）。小学校では5項目について聞いているが、母親がかかわる割合が多い順にみると、「授業参観に行っている」89.4%（「よくある」以下同）、「小学校の保護者会に参加している」50.6%、「小学校の担任の先生と子どものことについて話したり相談したりしている（個人面談など）」49.0%、「PTA活動に参加している」31.4%、「小学校の行事を手伝っている」25.6%だった。もっとも参加頻度の高い授業参観への参加は、「よくある」「ときどきある」を合わせると98.7%でほとんどの母親が参加していることになる。小学校入学後、親子どちらにとってもはじめてのことが多いことも参加率の高さに影響していると思われる。保護者会への参加の割合は、幼稚園・保育園とほぼ変わらなかった。子どものことについて保育者や先生に相談する頻度は、小1生では約半数、年長児では約3割が「よくある」と回答しており、小1生の母親のほうが割合が多い。背景として、小1生では、先生への個別の相談に加えて、入学後の家庭訪問や個人面談を行うことがあることも影響していると思われる。

今回の調査では、幼稚園・保育園や小学校と母親のかかわる頻度をみているが、子どもの育ちを協力して支えるという点からは、どのようなことを保育士・幼稚園教諭や先生と母親が話し、共有し、連携をとっているかといった点も重要であろう。そのためにも内容面について、今後、気をつけてみていきたい。

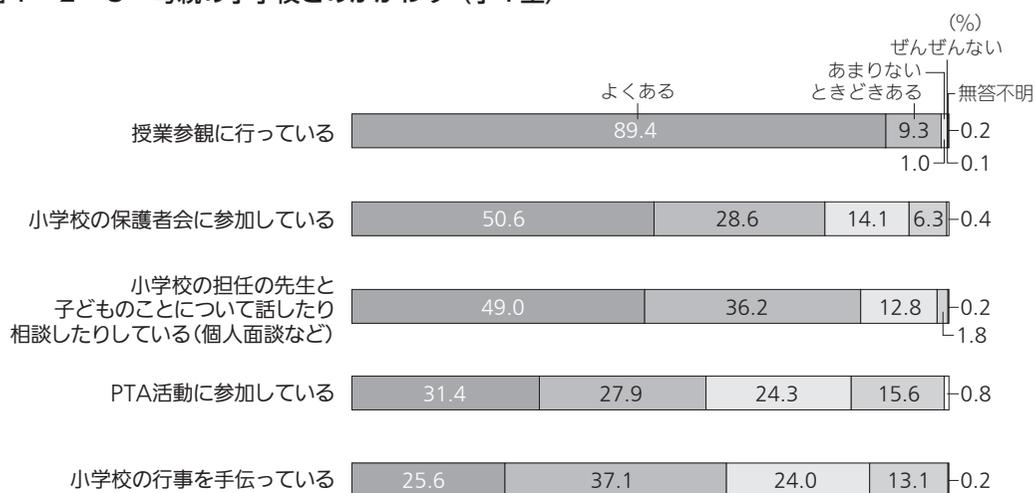
図4-2-2 母親の園とのかかわり（年少児～年長児・学年別）



注1) 園に通っていない人は除く。

注2) ()内はサンプル数。

図4-2-3 母親の小学校とのかかわり（小1生）



注) サンプルは、1,285人。